

図書館の電子書籍

オリジナルずらり

インターネットに接続していれば、24時間どこでも本を借りることができ電子書籍の貸し出しが、道内では最初に札幌市立図書館で始まった。「国立国会図書館にもない書籍の貸し出しを」と、道内の出版社や地元動物園とタッグを組み、オリジナルの書籍も製作。北海道ならではの書籍がずらりとそろった。

電子書籍として貸し出されるのは小説や雑誌など約2900タイトル。大手出版社の書籍もあるが、目をひくのは、道内の出版社



札幌市立図書館オリジナルの電子書籍では、両生類や爬虫類(はちゅうるい)の写真や解説も一緒に閲覧できる

利用方法は

電子書籍を借りられるのは市民か同市に通勤・通学している人で、市立図書館の貸出券とIDな

どを取得し、ネットで手続きをする。IDなどの発行は市立図書館や区民センターの図書施設などの窓口で。貸出期間は7日間で、期限が来ると自動的に返却される。

札幌市立図書館 道内出版社・動物園と連携

や円山動物園と連携した約400タイトルだ。中心になって準備を進めたのが中央図書館の浅野隆夫さん(48)。「北海道ならではの書籍を読んでほしい」と、道内の出版社にそれぞれが出版している書籍の電子化を依頼した。だが、当初は「経費も技術もない」といった声も多かったという。

一方で、浅野さんらは2011年から電子書籍貸し出しの実証実験を開始。市民モニターに利用してもらう中で、多くの市民が電子書籍の導入に賛同したことなどを背景に、道内の出版15社が一般社団法人「北海道デジタル出版推進協会」を設立、道内の情報誌や資料の電子化を始めた。経費面など、個別に対応すると難しい問題も、タッグを組むことで乗り越えた。

浅野さんは、子ども向け書籍にも力を入れた。円山動物園の飼育員に、日頃なかなか見られないワニの求愛行動を撮影してもらい、動画をオリジナルの電子書籍「円山動物園は虫類・両生類館デジタルガイド」に掲載した。デジタル絵本も約30タイトル。中には背景や空模様の色が変わる「動く絵本」もある。

日ごろから子どもや若者の本離れを実感している浅野さんは、電子書籍を通じて「地元の自然や文化のおもしろさを知ってほしい」と考えており、「電子書籍が実物の本に戻るきっかけになれば」とも話す。

(田山史)